

石井亮一・筆子と滝乃川学園



滝乃川学園とは1891(M24)年に出来た
日本で最初の障害児学校・施設です

石井亮一

1867(慶應3)年～1937(S12)年



石井筆子

1861(文久元)年～1944(S19)年



本題に入る前に 自己紹介
米川 覚 と申します

- 1981(S56)年: 滝乃川学園児童部入職
- 2003(H15)年: 児童部施設長、常務理事、
総合施設長
- 2005(H17)年: 成人部施設長兼務
- 2009(H21)年: 石井亮一・筆子記念館館長

創立者 石井 亮一

- 1867(慶應3)年5月25日生
父: 佐賀鍋島藩士石井雄左衛門、
母: けいの六男として生まれる
- 1884(M17)年: 立教大学入学
立教大学在学中、大学創立者
ウィリアムズ主教の教えによりキリス
ト教徒となる
日本聖公会、1887(M20)年受礼)
- 1890(M23)年: 立教大学卒、立
教女学校教頭に就任。



学友たちと

学生時代



壮年期



巣鴨の学園にて



いと小さきものに為したるは
すなわち我になしたるなり

<マタイによる福音書題25章第40節>

濃尾大震災 1891(M24)年10月28日



- M8. 4
- 死者7千余名
- 崩壊家屋14万戸
- 地震で親を無くした子が約600人

孤女救済

- 孤児救済活動:石井十次(岡山孤児院)、小橋勝之助(大阪博愛社)らとともに
- 亮一は、女子教育者として孤女の救済に当たる(孤女が人身売買されることが問題となる)
- 1891(M24)12月1日「孤女学院設立」(荻野吟子女史の「荻野医院」を仮院舎とする)
- 1892(M25)年、北豊島郡滝野川村(現:北区滝野川)に「孤女学院」院舎完成、引っ越し。最初は、寄宿舍付の「女学校」だった

亮一の決意 「孤女学院設立の告白」(概要)

- 私は女子教育に従事する事を一生の仕事と秘かに決意していました。父兄、学費がある者だけが教育を受けられる幸せものであります。今まで、一般の女子教育をする人は多々いましたが、孤女の教育に至っては環境を悪用する者ばかりでした。
- 孤女一人ひとりに合わせて学びを与え、保母となり、女工となり、産婆となり、看護婦となり、教師、伝道師となって更にその能力を伸ばし、女性達の先駆者となって貰いたい。そのために彼女たちの養育、教育のため終生の力を注ぐことが出来れば幸いである

- 1896(M29)年、1898(M31)年
知的障害児教育研究のため渡米
- 1897(M30)年:「孤女学院」を知的障害児教育施設「滝乃川学園」に改める
特殊教育部・保母養成部の2部体制とする
- 1903(M36)年:筆子と結婚
- 1904(M37)年:日本初の専門書
『白痴児其研究及教育』(丸善)発行
- 1906(M39)年:学園巣鴨に移転
- 1928(S3)年:現在地国立谷保に移転
- 1937(S12)年:「聖路加病院」にて逝去

「孤女学院」から「滝乃川学園」へ

知的障害児との出会い

太田徳代の墓(礼拝堂横)

- 孤女の中に皆と同じように教育しても成果の上がない女兒がいた
- 当時「白痴」と呼ばれていた「知的障害児」であった
- 知的障害児教育の必要を強く感じ、教育を始めた



筆子誕生 長崎・大村藩

- 1861(文久元)年4月27日生
- 父:渡辺清、母:ゲンの長女として、肥前大村岩舟(現・長崎県大村市玖島)に生まれる
- 1867(慶應3)年 大村事件(勤王派と佐幕派が対立)
- 勤王派が勝利:父清、叔父昇が主流派となり、藩をあげて倒幕に乗り出す)

父:清

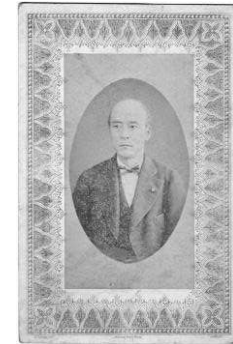
- ・ 長崎にて勝海舟より蘭学等を学ぶ
- ・ 1867(慶應3)年大村藩新精隊結成隊長となる。
- ・ 坂本龍馬の斡旋で共に土佐夕顔丸にて上洛(薩摩屋敷滞在)
- ・ 龍馬暗殺後駆けつける
- ・ 戊辰戦争にて初めて大村藩旗挙げる
- ・ 東征軍の参謀、官軍の先鋒
- ・ 江戸城無血開城、彰義隊討伐、会津討伐
- ・ 勝海舟:長崎にて「海軍伝習所」開設
- ・ 土佐軍艦「夕顔丸」内にて策定されたのが「船中八策」(大政奉還素案)
- ・ 薩摩兵と共に軍事訓練
- ・ 無血開城:勝海舟と西郷隆盛の江戸城無血開城事前協議に列席
- ・ 江戸城引き渡しの実務担当

叔父:昇

- ・ 1858(安政5)年藩主の江戸出府に随行、神道無念流「練兵館」道場に学ぶ(塾長:桂小五郎)長州藩と結びつき
- ・ 桂小五郎に次いで塾長となる
- ・ 清と共に藩を倒幕に導く
- ・ 坂本龍馬等と薩長同盟に成立に尽力
- ・ 「練兵館」には高杉晋作、品川弥二郎等が在籍
- ・ 「試衛館」道場の近藤勇と交友
- ・ 西郷、坂本の書状を長州へ持参し桂、高杉等に薩長同盟を説く、坂本と桂の会談(長崎)を実現する
- ・ 京都では新撰組と対立

維新後の清

- ・ 1869(M2)年:民部・大蔵大丞:大隈重信、伊藤博文に次ぐナンバー3
部下に洪澤栄一
- ・ 1874(M7)年:福岡県知事(西南戦争時鎮圧に当たる)
- ・ 1887(M20)年:男爵となる
- ・ 1889(M22)年:貴族院議員
- ・ 1891(M24)年:福島県知事
- ・ 1904(M37)年12月30日没(69才)



維新後の昇

- ・ 1869(M2)年:耶蘇宗徒処置取調掛(キリスト教弾圧)
- ・ 1871(M4年):大阪府知事
- ・ 1884(M17)年:会計検査院長(部下に、小鹿島果、平塚定二郎)
- ・ 1887(M20)年:子爵
- ・ 1904(M37)年貴族院議員
- ・ 1913(T2)年11月9日没(75才)



筆子上京

- 1872(M5)年:筆子上京、大村藩邸にて寄宿
- 1873(M6)年:初の官立女学校「東京女学校」に入学
- 1877(M10)年:ホイットニー家のバイブル塾(勝海舟邸)に通う
- 1879(M12)年:国賓として来日中のグラント前アメリカ大統領と長崎アメリカ領事館にて会見
- 藩主の娘知久子のお相手をする
- 同窓生:穂積歌子、鳩山春子
- クララ・ホイットニーと交友、外国文化、キリスト教との出会い
- グラント将軍は、英語を流暢に話す筆子に感心サイン入りの写真を貰う

大村をたつ筆子

(写真裏に「大村みやげ 姪の涙」)



ホイットニー・バイブル塾での出会い

クララ(筆子アルバム)



- 勝家の人々
- ウィリアムス主教(日本聖公会、立教関係創始者)
- ブランシェー師(米国聖公会牧師、立教女学校校長、筆子洗礼時の教父)
- ポアソナードと娘ルイーゼ(フランス法律学者)
- 帰国後の津田梅子、山川捨松
- クララは海舟の三男「梶梅太郎」と結婚

グラント前アメリカ大統領からの写真

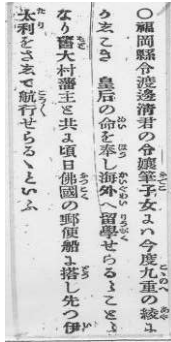
(筆子アルバム)



- 1879(M12)年6月22日 長崎米領事館にて父清と共に会談
- 「遠い日本で若い日本人婦人と英語で話せて非常に嬉しい」

欧州留学 1880(M13)年～1882(M15)年 オランダ・フランス・デンマーク

『東京曙新聞』4月17日



渡欧

- 特命全權公使(和蘭国)
長岡護美・妻知久(大村藩主:大村純潔六女)の従者
- 1880(M13)年7月9日横浜出帆、8月25日任地(ハーグ)着
- 1882(M15)年5月23日帰国

1882(M15)年 帰国子女たち

5月23日筆子帰国(21才)



帰国子女たち

- 11月18日:クララ再来日
- 11月20日:山川捨松(2才)津田梅子(18才)帰国(岩倉使節団)
瓜生繁子は前年帰国

筆子・梅子・捨松とクララ

華族女学校 1885(M18)年開校

教師集合写真



華族女学校

- 準備委員:大山捨松、下田歌子
- 校長:谷干城
- 幹事:下田歌子
- 外国語教師:小鹿島筆子(仏語)、津田梅子(英語)
- 1890(M23)年:九条節子(後の貞明皇后)入学

結婚

筆子(23才)

- 1884(M17)年7月22日
結婚式
- 小鹿島果(27才):大村藩家老大村右衛門次男(長男は夭折)
- 1886(M19)年:長女「幸子」誕生(障害児)、ウィリアムス主教より洗礼を受ける(日本聖公会・幸子の教母は津田梅子)
- 1890(M23)年:次女「恵子」誕生早世
- 1891(M24)年:三女「康子」誕生(障害児・7才で死去)

小鹿島果



1887(M20)年代の筆子

- 華族女学校のフランス語教師
- 華族女学校附属幼稚園主事(部下に、二葉保育園設立した、野口幽香、森島峯)
- 1888(M21)「大日本婦人教育会」(女子教育推進)設立、理事
- 1892(M25)夫果が病気にて死去
- 1893(M26)ミッションスクール「静修女学校」校長に就任(亮一は講師として助ける)
- 障害児を抱えたシングルマザー(障害児教育を始めた亮一が娘の教育に尽力)

結婚・共働

- 1898(M31)年 亮一:二度目の渡米
筆子:津田梅子と共に「万国婦人倶楽部」出席のために渡米
- 現地に合流し、立教女学校初代校長のブランシェー師の教会にて結婚の約束をする
- 1899(M32)年 筆子:華族女学校退職
- 1902(M35)年 静修女学校の校舎、生徒を津田梅子の「女子英学塾」(現・津田塾大学)に譲渡
- 1903(M36)年 亮一・筆子結婚

静修女学校校長 1893(M26)～1899(M32)年



最初は滝野川村にありました。 次に巣鴨村に移り国立に來ました

滝野川村時代
1892(M25)年～1906(M39)年

巣鴨村時代
1892(M39)年～1928(S3)年



滝乃川学園発祥の地 現：北区滝野川1-90

滝乃川学園発祥の地

2013(H25)年3月15日設置
(北区教育委員会)

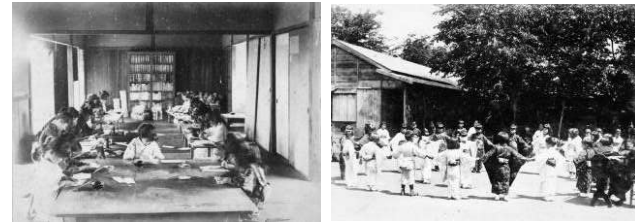


昔の子ども達

1887(M20)年代

孤女学院作業風景(実業)

お遊戯



飛鳥山渋澤邸にて 1927(S2)年

グリフィス博士夫妻を招いて

渋沢栄一、穂積歌子、鳩山春子、筆子



個人経営から「財団法人」へ

1920(T9)年9月9日)

歴代理事長(戦前)

渋沢栄一



- 初代：中尾太一郎(亮一と同郷、海軍軍医総監)
- 2代：小林彦五郎(亮一と同級生、立教女学校校長)
- 3代：渋沢栄一
- 4代：沢田廉三(外交官、夫人は沢田美喜、初代国連大使)

国立 谷保に移ってきました
1928(S3)年
記念館は国登録有形文化財 2009(H21)



航空写真 1932(S7)年頃

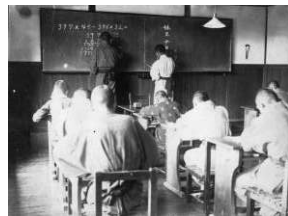


国立に来てから(戦前)

お遊戯



勉強



戦前のお仕事

農作業



籐細工



日本知的障害者福祉協会発足 (旧:日本精神薄弱児愛護協会)

設立メンバー(8施設)

- ・ 滝乃川学園(石井亮一)
- ・ 白川学園(脇田良吉)
- ・ 桃花塾(岩崎佐一)
- ・ 藤倉学園(川田貞治郎)
- ・ 筑波学園(岡野豊四郎)
- ・ 八幡学園(久保寺保久)
- ・ 浅草カルテ学園(林蘇東)
- ・ 小金井学園(長野幸雄)

その後加入

- ・ 三田谷治療教育院
(三田谷啓)
- ・ 広島六方学園(田中正雄)

1934(S9)年10月22日



筆子・第2代学園長 1937(S12)年



亮一・筆子の死

1937(昭和12)年6月14日(70歳)

1944(昭和19)年1月24日(83歳)



学園の文化財

聖三一礼拝堂・鐘楼
1928(S3年)
国上市登録文化財



天使のピアノ
1885(M18)年
国上市登録文化財



2本の映画

無名の人(宮崎信恵監督)
2006(H18)年



筆子その愛〜天使のピアノ〜
(山田火砂子監督)
2007(H19)年



『滝乃川学園120年史』 2011(H23)発行



道徳の教科書に載った筆子

中学校:道徳教科書

「鳩が飛び立つ日」



鳩無止足處還舟

筆子の娘達

- 鳩足を止める處無く舟に還る
- 青山墓地: 父渡辺清の墓の隣
- 幸子30歳、恵子5ヶ月、康子7歳

私の可愛い3羽の鳩は、この世に足を止めるところがなくて神の御許に還りました

幸子・恵子・康子 墓

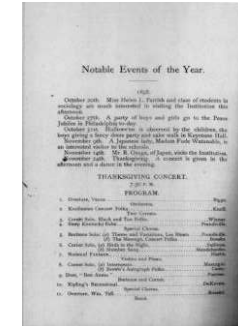


アーウィン校訪問

筆子・亮一訪問記録

ペンシルバニア州立アーウィン校

(アーウィン年報: 1898年)



Elwyn

2012(H24)年
(114年ぶりの訪問)



ELWYNの教え

心(ハート)

手(スキル)



現在の滝乃川学園

